

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520509

研究課題名(和文)医療現場のデータを用いた「配慮表現」の分析手法に関する研究

研究課題名(英文)A study on analytical techniques for consideration expressions in medical field

研究代表者

高永 茂 (Takanaga, Shigeru)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：10216674

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではまず医療現場において画像資料を収集した。収集した画像データをRIAS、社会言語学、語用論の3つの方法を用いて分析した。さらに質的研究法と量的研究法に関して、多方面から検討した。RIASは基本的に量的研究法に立脚する分析手法である。もう一方の言語学分野の分析手法は、質的な研究を基本にすることが多い。この両者を融合させるためにマルチモーダルな研究法に注目して新たな分析手法を模索した。また、「医療コミュニケーション教育研究セミナー」を開催して多職種間の学術的交流を図った。なお、データの収集は各研究機関の倫理委員会の審査を経て行った。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to investigate three methods, namely RIAS and linguistic methodology, to analyze medical interviews. We attempt to integrate these methods and develop a new multimodal method for the analysis of consideration expressions in medical field.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学, 言語学

キーワード：医療コミュニケーション 配慮表現 マルチモーダル

### 1. 研究開始当初の背景

医療の現場における会話を記録することが、医療コミュニケーション研究にとっては不可欠であるが、その方法には問題点も多い。従来の方法には、次の(a)～(d)のような問題が指摘できる。

(a)コーディングの方法に関する問題。

(b)医療を実践している地域の文化的特色をいかに反映するかという問題。

(c)非言語コミュニケーションを分析対象としていないという問題。

(d)「何を話すか」という点に重点が置かれ、「いかに話すか」という観点が弱いという問題。

このような問題点が、例えばRIASという方法には残っている。すなわち、RIASだけでは医療コミュニケーションの実相をすべて解明することはできないということを意味している。RIASという研究方法は世界標準になろうとしているが、同時に方法論的な限界もあるということである。医療コミュニケーション研究の目標は、医療現場でのコミュニケーションを分析し、そこで行なわれている言語・非言語コミュニケーションの諸特徴を解明することである。そのためには、量的・質的な研究方法を総動員する必要がある。RIASは確かに有力な分析手段であるが、それだけでは足りない。さらに有効な分析手法を開発する必要があると考えた。とくに日本語に特徴的な配慮表現は、その表現形式が多彩であるため、全容を記述することが大変に難しい。

### 2. 研究の目的

本研究では3つの目標を設定した。(1)医療分野で標準的分析手法となっているRIASと言語学分野の方法論とを融合させて、医療コミュニケーションの全容を明らかにするためのアプローチ方法を開発すること。(2)医療現場のデータを対象とすることによって、これまでの知見を検証すると同時に、医療コミュニケーションの新たな特徴を発見すること。(3)本研究を契機として、医療従事者と言語学者との交流を深め、領域の垣根を越えた共同研究の場を醸成すること。

### 3. 研究の方法

本研究では、医療場面の映像と音声を、RIAS、社会言語学、語用論という3つの手法を用いて分析し、その分析結果を比較検討した。(1)分析対象とする言語/非言語事象の異同、(2)言語形式の解釈、(3)コンテキストの利用方法などの観点から方法論間の対照研究を行った。医療場面としては、歯科の診療と歯科衛生士の保健指導を、10場面記録した。性別、年齢、症状、治療歴などの情報を勘案して、さまざまな事例が含まれるよう配慮した。また、「医療コミュニケーション教育研究セミナー」を開催して本研究に参加している研究者がそれぞれの研究成果を報告

して討議を行った。医療コミュニケーションの研究者を招聘し、本研究の成果と今後の課題について助言を求めた。

### 4. 研究成果

3年間の研究期間中に二つの成果を上げることができたと考えている。一つは、医療分野で標準的分析手法となっているRIASと言語学分野の方法論とを融合させて、医療コミュニケーションの全容を明らかにするためのアプローチ方法を開発するという目標、もう一つは、本研究を契機として医療従事者と言語学者との交流を深め、学問領域の垣根を越えた共同研究の場を醸成するという目標である。

質的研究法と量的研究法に関して多方面から検討し、その本質的な違いに迫ることができた。RIASは基本的に量的研究法に寄って立つ分析手法である。もう一方の言語学分野の分析手法は、質的な研究を基本にすることが多い。この両者を融合させるために、マルチモーダルな研究手法を模索にした。

本研究で注目したマルチモーダル(マルチモダリティ)研究においては、コミュニケーションは、言語やジェスチャー、視線、頭の動き、表情など、複数の資源の調和の取れた絡み合いによって、一つの発話の構築が達成されると考える。言語(統語構造)は会話における行為を具現化するために用いられる記号的資源の一つに過ぎないという言い方もできる。配慮表現についても、言語面だけでなく、非言語的な要素も含めて考察すべきだと考えた。

さらに「医療コミュニケーション教育研究セミナー」を開催して研究者間の学術的な交流を図った。本研究の研究代表者並びに研究分担者、連携研究者と他機関の医療コミュニケーション研究者が一堂に会して研究発表を行い、それぞれの発表内容について検討した。また、研究成果を教育の現場に還元する取り組みも行った。医療コミュニケーションの教授方法を活用したプロフェッショナルリズム教育を導入することにより、社会の求める歯科医療人の育成に寄与できる教育研究も行っている。

なお、データの収集を行う際には、事前に本研究の趣旨を十分説明し(説明と同意)同意の得られた者についてのみ実施した。研究代表者・研究分担者ならびに連携研究者は守秘義務を遵守することを確認した。もちろん、倫理委員会の審査を経ていることを申し添える。

### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計6件)

1. 著者名: 木尾哲朗、俣木誌朗、藤崎和彦、大西弘高、小川哲次、鬼塚千絵、西原達次  
論文標題: 歯学士教育課程におけるプロフェッショナルリズム教育の構築  
雑誌名: 日本歯科医学教育学会雑誌

査読の有無：有り

巻：29(1)

発行年：2013

最初と最後の頁：65-76

2. 著者名：鬼塚千絵、近藤元、喜多慎太郎、永松浩、木尾哲朗、寺下正道

論文標題：患者への治療計画に関するコミュニケーション分析—学生による気づき

雑誌名：日本総合歯科協議会雑誌

査読の有無：有り

巻：5

発行年：2013

最初と最後の頁：102-104

3. 著者名：藤井規孝、田口則宏、長谷川篤司、木尾哲朗、多田充裕、小川哲次、樋口勝規、伊藤孝訓

論文標題：大学における総合歯科の現状と展望

雑誌名：日本歯科医学教育学会雑誌

査読の有無：有り

巻：29(2)

発行年：2013

最初と最後の頁：95-104

4. 著者名：高永茂、木尾哲朗

論文標題：医療面接における表現モダリティの複層性についての研究

雑誌名：國文學政

査読の有無：有り

巻：220

発行年：2013

最初と最後の頁：1-15

5. 著者名：高永茂

論文標題：他職種の要望にどのように対応するのか

雑誌名：日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌

査読の有無：無し

巻：第4巻第1号

発行年：2013

最初と最後の頁：26-30(論文PDF)

URL

<http://healthcommunication.jp/journal/vol04no01/pdf3110.pdf>

6. 著者名：木尾哲朗

論文標題：歯科から見たプロフェッショナルリズム教育．プロフェッショナルリズムをどう育むか

査読の有無：有り

雑誌名：日本歯科医学教育学会雑誌

発行年：2012

巻：28(3)

最初と最後の頁：140-141

〔学会発表〕(計5件)

1. 小川哲次：医療系のコミュニケーションは

スキル教育でしょうか？科学教育でしょうか？—広島大学歯学部2年生対象の対人コミュニケーション論と医療コミュニケーション基礎論の授業から—第16回日本コミュニケーション学会中国四国支部大会、広島大学、2013年12月7日。

2. 小川哲次、大林泰二、西裕美、小原勝、田中良治、平田創一郎、尾崎哲則、櫻則章、木尾哲朗、山本龍生、平田幸夫：事例を活用したプロフェッショナルリズム教育のTips. 第32回日本歯科医学教育学会総会・学術大会、北海道大学、2013年7月12日。

3. 小川哲次、梶谷佳世、長谷由紀子、大林泰二、西裕美、小原勝、田中良治：医療面接における行動科学的アプローチについて. 第32回日本歯科医学教育学会総会・学術大会、北海道大学、2013年7月12日。

4. 高永茂：他職種の要望にどのように対応するのか. 第4回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会、慶應義塾大学・湘南藤沢キャンパス、2012年9月7日。

5. 小川哲次、岡田貢、津賀一弘、河村誠、島末洋、土井一矢、太刀掛銘子、長崎信一、小川郁子、中岡美由紀、田中良治：本院歯科医師臨床研修におけるプロフェッショナルリズムの修得：第31回日本歯科医学教育学会総会・学術大会、岡山大学、2012年7月20日。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高永茂 (TAKANAGA SHIGERU)

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：10216674

(2) 研究分担者

小川哲次 (OGAWA TETSUJI)

広島大学・病院・教授

研究者番号：50112206

木尾哲朗 (KONOO TETSURO)

九州歯科大学・歯学部・教授

研究者番号：10205437

(3) 連携研究者

田口則宏 (TAGUCHI NORIHIRO)

鹿児島大学・医歯(薬)学総合研究科・教授

研究者番号：30325196

永松浩 (NAGAMATSU HIROSHI)

九州歯科大学・歯学部・助教

研究者番号：70275444

鬼塚千絵 (ONIZUKA CHIE)

九州歯科大学・歯学部・助教

研究者番号：60336956

西 裕美 (NISHI HIROMI)  
広島大学・病院・助教  
研究者番号：70403558